

# 大阪府景気観測調査結果

2019年10～12月期

大阪産業経済リサーチ&デザインセンター

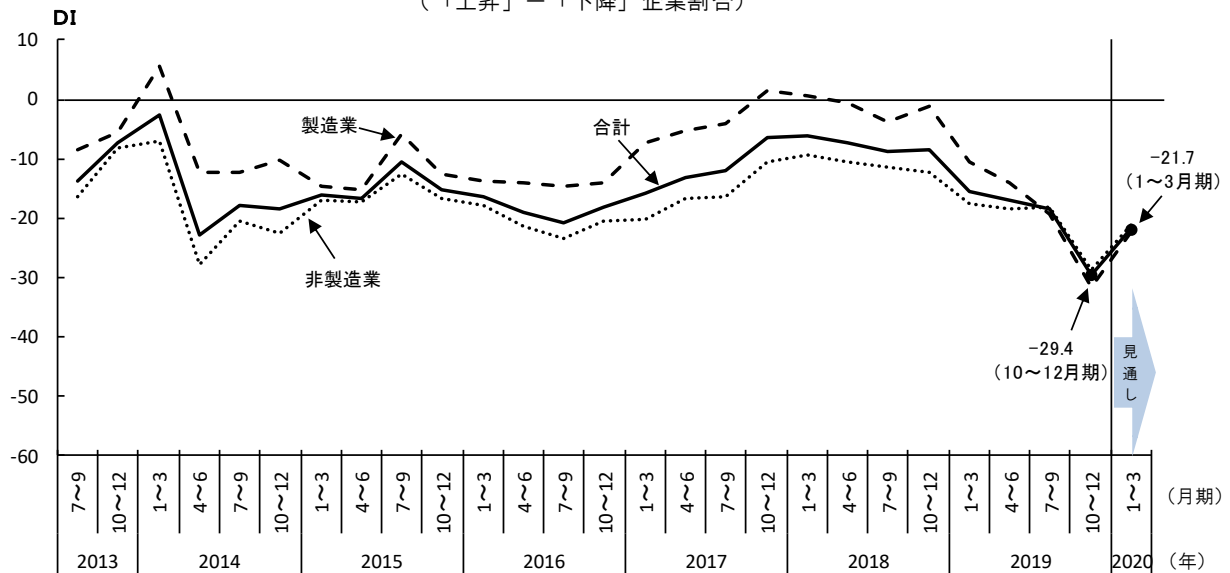
《 詳細は大阪府ホームページに掲載しています。 <http://www.pref.osaka.lg.jp/aid/sangyou/keikikansoku.html> 》

大阪府商工労働部（大阪産業経済リサーチ&デザインセンター）では、府内企業を対象として四半期毎に、大阪市と協力して景気観測調査を実施しております。2019年10～12月期の調査結果の概要は次のとおりです。

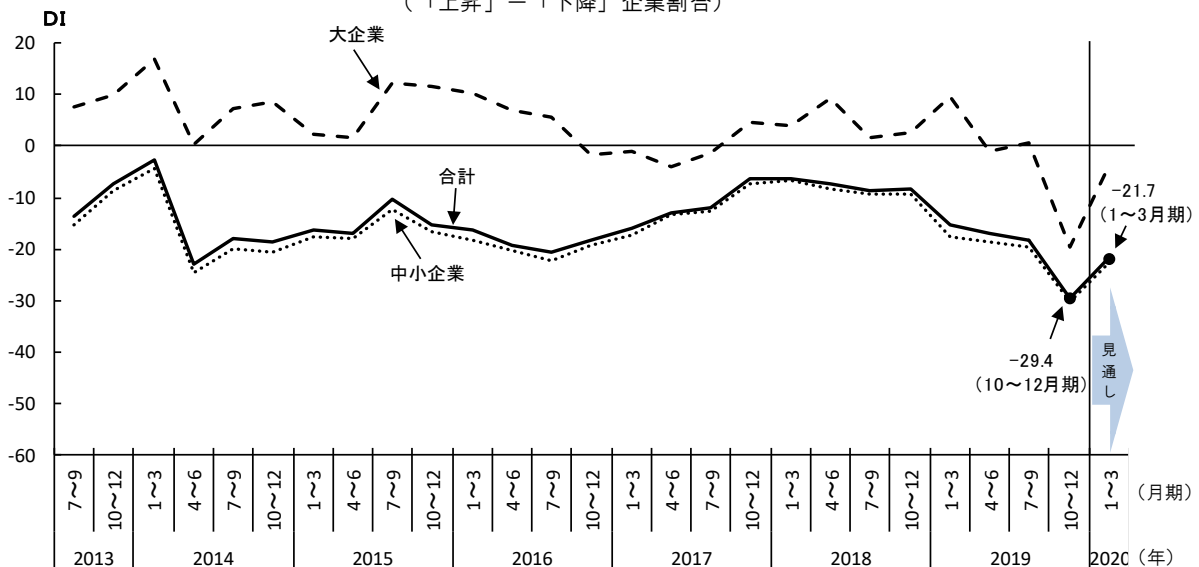
## 【景気は、弱い動きとなっている】

1. 今期の業況判断DIは全産業で4期連続の悪化となった。来期の業況は全産業で改善する見通しであるが、先行きには注意が必要である。

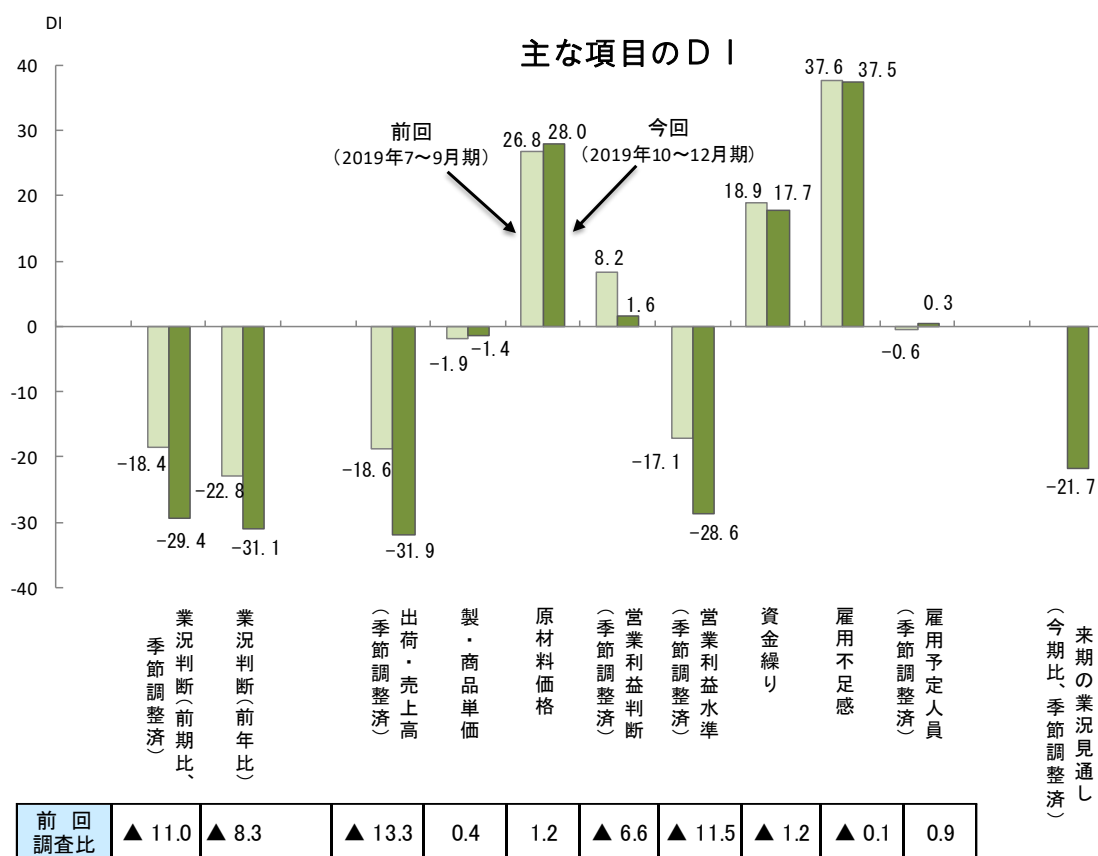
業況判断DIの推移（前期比、季節調整済、製造業・非製造業別）  
（「上昇」－「下降」企業割合）



業況判断DIの推移（前期比、季節調整済、大企業・中小企業別）  
（「上昇」－「下降」企業割合）



2. 主な項目のD Iをみると、出荷・売上高D Iは前回の消費増税時(2014年4～6月期)に匹敵する下落幅になっている。製・商品単価D Iは2期連続のマイナス、原材料価格D Iは4期ぶりの上昇となった。営業利益判断D Iは14期連続のプラス水準、営業利益水準D Iは2012年10～12月期以来の低水準となっている。資金繰りD Iはプラス水準も低下傾向が続いている。雇用不足感D Iは高止まりし、雇用予定人員D Iは3期ぶりのプラスとなっている。



※D Iは「上昇又は増加等の企業割合(%)」から「下降又は減少等の企業割合(%)」を差し引いたもので、プラスは上昇・増加・黒字基調・順調等の企業割合が上回り、マイナスは下降・減少・赤字基調・窮屈等の企業割合が上回ったことを示す。

3. 2020年1～3月期の業況判断D Iは、大企業で前期比が大幅に上昇し、全体でも改善する見通し。

**業況判断D Iの推移**

| 年<br>月 期 | 2017  |       | 2018 |       |       |       | 2019  |       |       |       | 2020<br>1～3 |
|----------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
|          | 7～9   | 10～12 | 1～3  | 4～6   | 7～9   | 10～12 | 1～3   | 4～6   | 7～9   | 10～12 |             |
| 製造業      | -3.9  | 1.5   | 0.5  | -0.7  | -3.7  | -1.1  | -10.6 | -14.1 | -19.3 | -31.6 | -22.2       |
| 非製造業     | -16.3 | -10.5 | -9.3 | -10.6 | -11.4 | -12.2 | -17.5 | -18.4 | -18.1 | -28.7 | -21.2       |
| 大企業      | -1.4  | 4.7   | 4.1  | 9.4   | 1.5   | 2.6   | 9.6   | -0.9  | 0.5   | -19.7 | -3.7        |
| 中小企業     | -12.5 | -7.2  | -6.7 | -8.4  | -9.2  | -9.3  | -17.7 | -18.5 | -19.4 | -30.1 | -22.5       |
| 合 計      | -12.0 | -6.3  | -6.1 | -7.3  | -8.7  | -8.5  | -15.4 | -17.1 | -18.4 | -29.4 | -21.7       |

来 期  
見 通 し